

NIAD-QE

演習の 進め方

令和元年度人材育成セミナー
「大学等のIR実務担当者向けワークショップ」

スケジュール



NIAD-QE

- 演習を始める前に・・・
- 演習の進め方
 - ステップ1：データ分析 (30分)
 - ステップ2：データ解釈 (30分)
 - ステップ3：図表の作成 (25分)
 - まとめ作業、成果物の提出 (30分)
 - 成果物の確認、投票 (10分)
 - 全体発表 (20分)
- 講評

演習を始める前に・・・（１）



IRにできることは？

→意思決定を支援すること！

意思決定するのは学長等の役職者
や現場の担当者

とは言いつつ、意思決定を支援するには、
そもそも意思決定とは何かを知る必要が
ある。

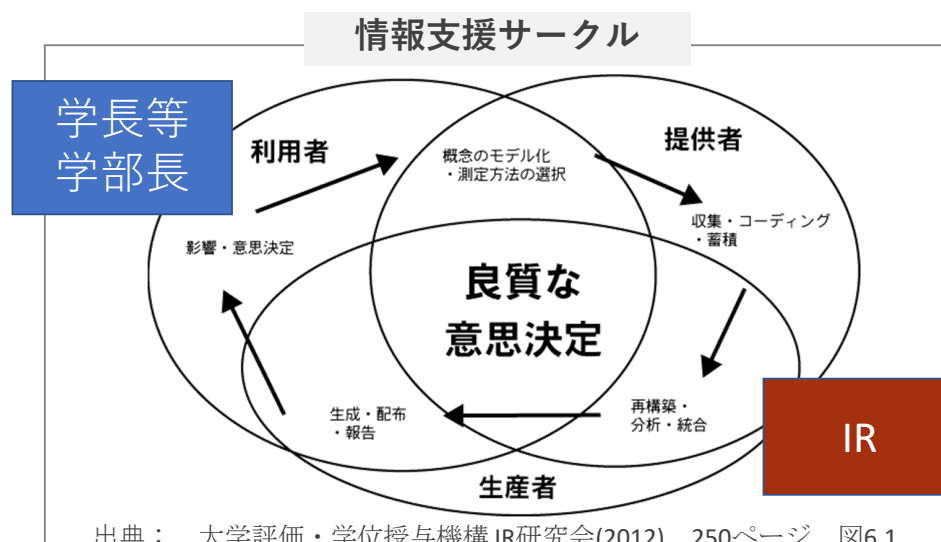
3

演習を始める前に・・・（２）



意思決定とは？

→特定の目標を達成するため、ある状況において複数の
の代替案から最善の解を求めようとする行為。



4

演習を始める前に・・・（3）



学長等、学部長は、IR担当者が思っているほど、

- ・状況を理解できているとは限らない。
- ・時間をかけてレポートを見られない。
- ・分析結果だけで判断できない。

だからこそ、**分かりやすいレポート**を！

5

演習の進め方（1）



演習の目的

データの分析を行い、自分なりの解釈を人へわかりやすく伝えるスキルを身に付けること。

➡ **「エグゼクティブ・サマリー」を作成**

そのため

ステップ1：共通の分析の観点に基づくデータ分析

ステップ2：特定の大学の特徴をデータから解釈

ステップ3：図表の作成、分析/解釈の整理

まとめ作業：エグゼクティブ・サマリーの作成

全体発表：エグゼクティブ・サマリーの発表

6

演習の進め方（2）



ステップ1

「ダイバーシティ」について自己分析を行う。



Must : 女子学生、女性教員

+ α : 外国人学生、外国人教員

そのため、大学ポートレートセンター事務室が作成した分析レポートから特定大学とピア大学の特徴を把握

演習の進め方（3）



ステップ1

項目	視点	レポート
女子学生	<ul style="list-style-type: none">・ 所在エリアの比率・ 学部/大学院の比率・ 理系/文系の比率 など	01.学生総数と女性割合・学部大学院比率_07_A 22.進路別卒業状況（進学・就職等）_30_A
女性教員	<ul style="list-style-type: none">・ 所在エリアの比率・ 特定大学の比率・ 理系/文系の比率 など	02.本務教員_07_B^07_1

演習の進め方（４）

ステップ２

自己分析の結果を裏付けるデータを整理し、「なぜそうなっているのか」を解釈する。

例：

特定大学の女子学生比率が「増加傾向」にある。

- ・ 近隣の男子高校が共学になった
- ・ 入試広報で自大学の女子大学生を多く起用した
- ・ 女子学生向けの支援事業がテレビで報道されたなど

演習の進め方（５）

ステップ３

ステップ２の根拠となる図表の作成、及びエグゼクティブ・サマリーに掲載する内容を整理する。

注意点：

- ・ 自分たちが主張したいことは何か？
- ・ インパクトを与える見出しになっているか？
- ・ 主張を裏付ける図表があるか？
- ・ 相手がより知りたくなる内容になっているか？

演習の進め方（6）



まとめの作業

エグゼクティブ・サマリー（※）を作成し、発表できるように準備する。

※エグゼクティブ・サマリーとは、報告書の冒頭で概要や全体像を要約した部分。読み手が最初に読むのがエグゼクティブ・サマリーであり、唯一読む部分である可能性も高い。エグゼクティブ・サマリーは、伝えたいことを要約したものであり、どんなに忙しい人でもざっと目を通しただけで伝えたいことの概要を理解でき、より知りたいと思わせるようになっている必要がある。

11

演習の進め方（7）



エグゼクティブ・サマリーの構成

タイトル：

作成者：

作成日：

調査の概要（2～3行程度）：

報告のポイント（3～4点程度。1点あたりの掲載分量は2行程度）

主張を裏付ける図または表の挿入（特に重要な根拠資料として使う。1～2点程度。作成の際には見やすさも意識することが重要）

12

演習の進め方（8）



投票

各班が作成した要約（エグゼクティブ・サマリー）を確認し、良いと思った班に投票（複数選択可、1回のみ）。

全体発表

投票の結果、得票数上位3つの班が発表。
発表時間は、1グループ当たり5分以内。

13

参考文献



浅野茂・本田寛輔・鳶田敏行（2014），「米国における
インスティテューショナル・リサーチ部署による意
思決定支援の実際」，大学評価・学位研究第15号，
pp.33-54.

大学評価・学位授与機構 IR研究会(2012)，『IR実践ハン
ドブック－大学の意思決定支援－』，玉川大学出版
部.

14